

1 PISA 2003 の結果より

(1) PISA 型読解力とは？

「自らの目標を達成し，自らの知識と可能性を発達させ，効果的に社会に参加するために，書かれたテキストを理解し，利用し，熟考する能力」

通常の読解力が意味するものより，機能的・実用的な性格が強い。受験型の読解力ではなく，自分で課題を見つけて主体的に判断する力。書かれているテキストを活用して自分で考える。これから社会生活をおくっていく上で必要な能力。将来必要になる力・役に立つ力である。

「読解のプロセス」に対応した三つの課題

- （ ） 情報の取り出し(テキストに書かれている情報を正確に取り出すこと)
- （ ） 解釈(書かれた情報がどのような意味を持つか理解したり推論したりすること)
- （ ） 熟考・評価(テキストに書かれていることを生徒の知識や考え方・経験と結び付けること)

(2) 調査結果から明らかになった問題点

学力下位層の増加・・・学力格差が広がった。

「解釈」の力の低下

テキストを読んで，考えたことを表現する力が劣っている。

「読解力」の低下

2 今後の国語科授業のあり方

(1) 基礎的な読解力(問題文を正しく理解する力，語彙力も含む)を保障する

基礎的読解力があっての PISA 型読解力

(2) 批判力を育成する・・・PISA の「熟考・評価」にあたる。

- ・ メタ認知能力・・・自分の思考や表現のあり方をモニタリングしたり，コントロールしたりする力(自分を振り返る力)
- ・ テキストがいかに書かれているかを分析し，読者(自分)との関わりで表現の工夫や効果を考える。

(3) 論理的な思考力・表現力を育てる

- ・ 自分の考えを論理的に記述する力が不十分  
原因・・・大学入試センター試験(マークシート)，ワークシートやプリントに頼る傾向は，じっくりと考えて自分の意見を持つこと，それを論理的に表現することを阻害している。
- ・ 考えることが面倒臭いと考えの子が増えてきている。  
論理的に考えることの面白さを味わえる授業が必要。「批判的リテラシー」も育てる授業の開発が望まれる。

(4) 指導上の留意点

言語技術(読み書きの技術だけでなく，考える技術も含む)を育てる。

- ・・・3ステップ学習法(基礎的・要素的段階から応用的・総合的な段階へと発展)